

按司墓・豆腐喰松・千原馬場・果樹園跡

はいさーい！ きじむんやいびーん。

今回は、農学部付近にある史跡や、農業、農耕儀礼に関する琉大内の史跡を案内します。

按司墓

農学部の敷地内には、イシグスク(西原町指定文化財)があります。そこには、棚原集落の古い墓があります。右の写真は、「先代 大殿内門中按司墓(うふどうんち もんちゅう あじばか)」です。

また、津覇高墓という古い墓もあるようですが、今回の取材では確認できませんでした。

トーフクェーマーチ(豆腐喰松)

今の北食堂近くには、かつては大人2人で抱えられるほどの大松が2本並んで生えていて、その下に香炉が一つあり、

村の拝所となっていました。1月2日の山御願(やまうぐわん)の神事の時、この拝所に豆腐を供えようと、いつの間になくなったそうです。そのため松が豆腐を食べていると言われるようになり、トーフクェーマーチの名がつけました。

柚山(そまやま)の管理者が守ってきた戦前からの大松でしたが、昭和8年頃、無断で伐採されてしまいました。そのため、大松だけが目印だったこの拝所を探すのが困難になってしまいました。



按司墓



千原馬場

千原馬場

千原馬場は、年中行事として馬の競走をしていた場所です。北口を入ったあたりのループ道路上、約200mの区間になります。

琉球の競馬は、馬の足4本全てが地面から離れたら失格というルールです。ハレの行事としてどの集落でも人気がありました。村人は晴れ着を着て酒や肴を楽しみつつ見物しました。

果樹園跡

琉大ができるまで、千原馬場付近は、果樹園が広がっていました。昭和35年ごろ、台湾の陳さん(名は不明)が、千原馬場の南側山地の2万坪の村有地を開墾し、果樹(主に紀州みかん、ポンカン、グワバなど)を植え付けていました。

これらのほかにも琉大内の史跡やスポットはたくさん。続きは、また次回に御案内します！

(AS生)

参考文献

西原町史編纂委員会編『西原町史』第四巻資料編三 西原の民俗 平成元年3月

西原町史編纂委員会編『西原町史』第五巻資料編四 西原の考古 平成8年3月

仲間勇栄・仲地宗俊・菊池香「琉球大学千原キャンパスにおける森と人々の暮らしに関するフィールド調査」『琉球大学農学部学術報告49号』平成14年12月



果樹園跡

宜野湾市教育委員会文化課編集・発行『ぎのわんの地名内陸部編』平成24年3月

取材協力：琉球大学農学部亜熱帯フィールド科学教育研究センター

琉球大学附属図書館 沖縄資料担当 平成26年8月1日発行